



進化した「全校かくれんぼ」

昨日20日(水曜日)の「わくわくタイム」は、「全校かくれんぼ」が行われました。これは「わくわく通信121号」でお知らせした代表委員会の中で決まったのですが、学級閉鎖が続いて、延期になり、今回開催することができました。

今回も、子供たちのアイデアを最大限に生かした「全校かくれんぼ」となりました。先週から、企画委員会が鬼の手配書を各学級の教室の前に掲示し、子供たちも鬼をしっかりと確認していました。子供たちからは「校長先生は鬼にならないんですか?」と尋ねられましたが、そこは内緒にしておきました。

全校かくれんぼが始まると、各教室に分かれて Zoom で、企画委員会からのルール説明があり、悪の科学者「だってマン」にコピーされた帯西レンジャーが鬼役となることや、サンタクロースも鬼に参戦することなどが、動画によって伝えられました。そして、隠れるためのカウントダウンが始まり、たてわり班ごとに校内のあらゆる場所に移動しながら隠れる場所を探しました。校舎内、運動場と、たてわり班のグループは息を潜めました。ただし、鬼は隠れている子供を見つけても、腕にピンクの腕輪をしている子供を探し出さないと、そのグループを見つけたことにはならないのです。かくれんぼは2回戦が行われ、私も鬼となり、子供たちを探し出しました。しかし、子供たちは上手に隠れ、なかなか見つけることができませんでした。

子供たちの「全校かくれんぼ」を経験しての感想です。鬼役のレンジャーは、「『👹 帯西イエロー』の心が伸びました。今日までいろんな工夫をしてきて、学校全体を盛り上げることができたからです。」「『👹 帯西レッド』の心が伸びました。わけは、衣装など自分で工夫して鬼役になれるように頑張ったからです。」と述べました。また、隠れている子供たちは「『👹 帯西グリーン』の心が伸びました。わけは、教室に隠れるとき、椅子で鬼が入ってこないように壁をつくって、みんなで助け合ったからです。」「『👹 帯西グリーンと👹 ブルー』の心が伸びました。それは、鬼に見つからないように、下級生の子の長袖の下にピンクの腕輪を隠してあげたからです。最後まで隠れきることができて最高でした。」と述べました。

今回の全校かくれんぼの開催を企画した企画委員長の吉崎さんは、「自分でセリフを作ったりして、自分の役割を果たすことができました。みんなもそれぞれ役割を果たし、広い心で協力し合って僕たちも楽しむことができました。」と述べています。

今日の全校かくれんぼを視察した、帯西担当の熊本市教育委員会の指導主事からも「こんな素敵なイベントを子供たちに任せてできる学校って、魅力があります。子供も大人も一つになって楽しめるって本当に素晴らしいことです。」という意見をいただきました。今後も、もっと「わくわく」になる学校にするために、子供たちそして教職員みんなで知恵を出し合っていきたいと思いました。

事前の鬼の手配書
今年の全校かくれんぼの鬼は...



Zoomでの映像



出発前の鬼たちの団結



必死に探す鬼



隠れる天才の子供たち

